

# JAITI 60

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL [jaiti@janis.or.jp](mailto:jaiti@janis.or.jp)

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団  
 事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5  
 TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

## 今日のジャイチ

新型コロナウイルスの脅威が叫ばれてから1年。未だ感染拡大の衰える気配が見えず、むしろ、変異によってより感染力を増しているウイルス体が出現しているとの報道も流れています。

国内はもとより、全世界で毎日罹患者の増加が報じられ、南極大陸に至るまで地球の上すべての大陸を、このウイルスが席捲したことになるようです。

ネパールも、当初の感染者はそれほどではなかったものの、時を追うごとに広がりを見せ、最近の報告では25万人を超える勢いで、約2700万人のネパールの人口と日本の人口から見て

も、かなりの感染比率になっています。(表 現地報告参照)

当然のことのように、外出自粛やロックダウンなど、人の移動を制限して感染を抑える措置は繰り返して行われているようですが、歯止めがかかっていないようです。

カトマンズ市内では、平時であれば、行き交う車で混雑する道路も、公共交通以外の車の使用を制限したり、日によって車のナンバー

の偶数と奇数を分けて走行を認めたりと、感染防止への苦心が見られます。

日本でも、様々な行事やイベントが中止や規模を縮小して行わざるを得なくなっているように、ネパールの人々が最も楽しみにしている、秋の最大のお祭りであるダサインやティハールは、自粛の中で、街に繰り出すような姿もなく、また、田

舎に帰って親、兄弟たちと祝うことも出来なかったようです。

### ◆バシファント学校の学生寮が完成

一昨年の秋から建設工事が進められてきた学生寮が昨年未完成しました。

コロナの影響で、工事の中断を余儀なくされた時期もありましたが、工事関係者のご尽力により、生徒たちが住みたくなる素晴らしい建物が出来上がりました。

2階建て14部屋を備える学生寮は、在ネパール日本大使館の支援で実現したもので、生徒たちが安心して勉学に励むことが出来る環境に大いに役立つものと期待されます。



▲新型コロナウイルスの感染が拡大する中、生徒たちの学習を何とか進めようと開校するカカニ・ブライター学校ですが、感染防止のために再度休校になったり、少人数での登校が続いています。(関連記事2頁)

### 《ネパールのウイルス感染状況》

| 月 日    | 感染者 人   | 死者 人  | 前後の状況                   |
|--------|---------|-------|-------------------------|
| 3月10日  | 0       | 0     | 日本・韓国・中国・ヨーロッパなどからの入国停止 |
| 3月27日  | 3       | 0     | 23日から自宅待機(ロックダウン) 学校休校  |
| 4月24日  | 47      | 0     | 学校休校続く                  |
| 5月17日  | 250     | 1     | 車両の走行制限                 |
| 6月 9日  | 4,000   | 16    | ロックダウン解除                |
| 7月 2日  | 14,519  | 31    | カトマンズ地域も感染拡大            |
| 8月10日  | 22,975  | 75    | ロックダウン再び始まる             |
| 9月11日  | 50,465  | 317   | 外出規制緩和 スーパー週3日開店 学校休校   |
| 10月 7日 | 107,755 | 636   | 学校グループに分け授業始め           |
| 11月12日 | 204,242 | 1,174 | 秋の祭り中も外出自粛              |
| 11月27日 | 226,026 | 1,389 | カカニ学校開校 60人登校           |
| 12月11日 | 245,650 | 1,663 | カトマンズ市内の学校開校            |



▶バシファント学校の校門近くに新築なった学生寮。60人から70人の生徒が共同生活を送る



▶マット付きベッドも用意され入室を待つばかりに

# ジャイチネパールから

## コロナ禍と ブライター学校

今年、世界各國と同様に、ネパールも新型コロナウイルスで大変大きな影響を受けています。

カカニ村にあるブライター学校も3月以降、ネパール政府による全国ロックダウンの発令で新入生徒の登録手続きを行うことが不可能になりました。

政府の指示で代替措置として始められたクラスター教育も、15日間ほどして感染者が増加してきたことから

ら延期となり、また、ネパール文部省により進められた代替教育手順や自治体の調整でのプログラムを始めたものの、これも感染の拡大により一週間以内に中止しなければならなくなりました。

11月から3回目のプログラムとして、ソーシヤルディスタンス、マスクを必ず着用する、入室の際は体温測定を行うなど安全対策を行いながら開校に努めています。

しかし、コロナの恐れから、これまで350人程の学生のうち、登校する生徒



▲1クラスの出席者を制限し、机と生徒と生徒の間隔を広げ、マスクを着用して授業を行っています。

は70人ばかりにとどまっています。このため、学校の経営にも大きな打撃となっており、学校スタッフ、教師たちの給与の支給にも支障をきたすなど、今後もコロナウイルスの感染拡大が長引くことになると、さらに深刻な状況が危惧されます。(ジム・ラル・グルン)



▲幼稚クラスも少人数で

### カカニ・ブライター学校の維持に、 ご支援をお願いします。

コロナ禍により厳しい運営が続いています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### カカニ村からブライター 学校に教材機器の贈呈

先にカカニ村のマン・パハドール、ラマ村長から話があった教材機器が、このほどブライター学校に寄贈されました。

ラマ村長には、この前にも、ブライター学校に通ずる道路のコンクリート舗装工事など、学校に対して大変ご尽力をいただいています。

今回贈られたのは、デスクトップパソコン2台、プリンター1台、フォトコピー機1台で、学校業務の効率化に大いに役立つものと感謝しています。



▶カカニ村からたくさんさんの機器をいただきお礼をするブライター学校の生徒の皆さん

### カカニ農場でオーガニック 農業の講習会

去る12月、ネパールで有機農業を広く進めようと活動しているパネパ市在住のカルパナさんのグループによる講習会が、カカニ農場を会場に10日間の日程で行われました。

この講習会は、オーガニック農業を普及しようとする、いわば指導員のための研修で、今回は、東ネパールのグヌタク町の皆さんが参加しました。

講師は、グループの社名である「イムニティ・オーガニック・プロダクション」の専門家が務め、カカニ村のラマ村長、ジャイチネパールからはグルンさんが参加し、あいさつしました。



▶講習会で有機農業の講義を熱心に聴く参加者

### 今冬もイチゴが獲れました

カカニの村々では、11月頃から地域の特産物であるイチゴの収穫が始まっています。

栽培農家も増え、生産量も増加して、カトマンズ市街地などの消費地へ出荷されていきますが、外出自粛や観光客の激減により、消費にも影響が出ており、道路端での直接販売が目立っています。



▶農場では、有機肥料、無農薬による栽培実証が行われている。



# あれから30年

ニューズレター「JAITI」第1号が1991年6月に発行されてから、今回で60号の発行となりました。

年2回の発行ですので、30年ということになります。

年月の経つのは早いもので、この間、ネパールも政治的に、また、文化や人々の暮らしなど様々な変化が見られています。

今号では、JAITIとネパールの橋渡しにご協力いただいているマン・シュレスタさん(栃木県在住)に、ネパールの変化の一端を寄稿していただきました。

## ◆国家体制が大きく変わりました。

当時のネパールは、ピレンドラ国王による絶対君主制による政治が続いていました。民主化運動の高まりにより、王制の廃止、連邦共和制国家に移行しました。

しかしながら、汚職と不安定な政府の問題はまだ残された状況にあります。

とはいえ、今は昔のままのネパールではなく、この30年の間に国民の政治に対する意識は大きく目覚め、

育ったと思われれます。



▶カトマンズの街中を闊歩する牛の姿も見かけなくなりました。

## ◆暮らしの変化

国の発展の中でも一番目立つのは、電気製品の物が豊富に使えるようになったことでしょう。

テレビの導入、携帯電話はほとんどの人たちが利用しており、バイクや自動車の台数も相当に増え、仕事をすることも便利になりました。

車社会が急速に進むに合わせ、道路の整備も進み、学校や近隣の町へ行くにも以前のように何時間もかけて歩く必要もなくなってきました。

## ◆教育への意識

1990年ごろのネパールを思い出してみると、義務教育は5年生までで、し

かも、学校の数と場所は限られていました。

地方や山村部にはほとんど学校はありませんでした。国立の小学校はあつたとしても、政府の支援・応援は十分ではなく、生徒数も本当に少ない状態でした。

当時、子どもを通学させるよりも家事を手伝ってもらうことのほうが重要と考える家庭が多く、また、貧困状態で経済力もなく、毎日の生活を送るのがやっとで、子どもたちの教科書・文房具などを用意するお金も大変なことでした。



▶家畜山羊の世話をする農家の少女

経済的にゆとりのある家庭の子どもたちは、私立(民間)の学校に綺麗な制服で通うことができましたが、国立学校の子どもたちは、制服も調達できず、家で普段着ている服装のまま通っていました。

## ◆ジャイチの登場

ジャイチがバシフアント学校を設立したのが1993年でしたが、最初の一年生として30人の生徒を集めるのも難しい状況でした。

しかし、今は教育に対して国民の意識も大きく変わってきて、ほとんどの子どもたちが学校に通う時代になりました。また、私立、国公立、どの学校にも制服を着て通学するようになったのは、国民たちの経済力が上がってきた表れでしょう。



▶きちんと制服を着て、弟と仲良く学校へ



▶バイクや車が普及して街へ出かけてくるのも短時間で済むようになった

## ネパールで起きた歴史的な出来事

|       |   |
|-------|---|
| 1980年 | 当時のネパールは、ピレンドラ王による絶対君主制でした。   |
| 1985年 | ネパール kongress 党が、複数政党制の回復のためキャンペーンを開始しました。  |
| 1989年 | インドとの貿易と輸送の紛争が国境封鎖につながり、経済状況を悪化させました。   |
| 1990年 | ネパール kongress 党と左派グループによる民主化運動で治安部隊の制圧により、死者と大量の逮捕者をもたらしました。ピレンドラ王は最終的に圧力に屈し、新しい民主主義憲法に同意しました。第一次民主化運動。 |
| 1991年 | ネパール kongress 党が最初の民主選挙で勝利し、ギリジャー・ブラサード・コイララ氏が首相に就任しました。  |
| 1994年 | 政治不安により、コイララ政権は不信任決議で敗退しました。新しい選挙では、共産党政府の形成につながりました。   |
| 1995年 | 君主制が廃止されることを望む反政府勢力により、以降10年以上にわたって数千人が犠牲となるマオ主義の反乱が始まりました。   |
| 2000年 | コイララ氏が首相として復帰し、10年間、第9次政府を率いました。  |
| 2001年 | 宮殿の虐殺事件が起き、4日間の暴動で100人以上が殺害された後、非常事態宣言が発令されました。ギネンドラ王は軍に毛沢東派の反政府勢力を排除するよう命じ、数ヶ月で数百人が犠牲になりました。           |
| 2006年 | 政府はマオイストとの和平協定に署名し、10年にわたった反乱を終わらせました。  |
| 2007年 | ネパールの君主制が終わりました。王制廃止  |
| 2010年 | 長年にわたって憲法の行き詰まりが続きました。  |
| 2015年 | マグニチュード7.8の地震がカトマンズとその周辺を襲い、大規模な災害を引き起こし、8000人以上が死亡し、数百万人が家を失いました。ネパールの民主的な国家としての画期的な憲法を可決しました。         |
| 2020年 | 世界的なCOVID-19パンデミックの感染拡大で、すべてが停滞しています。   |



ヒマラヤ山脈を代表する世界最高峰のエベレスト

# サガルマータが86センチ高く

ネパールの神聖なる山「サガルマータ」。中国では「チョモランマ」と呼ぶ世界最高峰のエベレスト。

インドがイギリスの統治下だった1840年代、イギリスのエベレストなる人物が最初の測量を行ったことに因んで「エベレスト」という山名になったのだとか。

その後、1950年代に

インドが測量した8848メートルが公式な標高とされてきました。

2000年に入って中国が再測量した際には、雪と氷の厚さを除いて8844メートルほどだとしましたが、今回、ネパールと中国の新たに行った測量の結果に基づいて、8848・86メートルを正式な標高とすることになり、これまでより86センチ高くなったと

いうことです。

雪と氷の厚さを含めてのことのようですが。

地球変動で、アフリカから離れた今のインドが、大陸にぶつかり、ヒマラヤ山脈という皺を形づくっていることからすると、異変がない限り、これからも少しずつ隆起を続けていくことになるのでしょうか。

インドと中国の間にあるネパールですが、両国の押しから饅頭でつぶされないよう、自国の意識も高めていくてくれることを願います。

## 物故者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますとともにこれまでのご支援に感謝申し上げます。

- 青木満子様 茨城県筑西市 一九九一年一〇月
- 吉田晴彦様 神奈川県川崎市 一九九一年
- 山村久兵衛様 滋賀県大津市 二〇〇一年七月
- 山縣敏子様 東京都文京区 二〇〇一年七月
- 田伏洋吉様 兵庫県芦屋市 二〇〇一年一〇月
- 中村純二様 東京都調布市 二〇〇一年一〇月
- 宮田増美様 東京都世田谷区 二〇〇一年一〇月
- 竹村雅史様 群馬県高崎市 二〇〇一年一二月
- 森七太郎様 富山高岡市 二〇〇一年一二月



▶カカニ・ブライター学校から望むヒマラヤ (写真はガネッシユ)

今年のジャイチツアーはコロナ禍により中止の予定です。

書き損じハガキを送って下さい。  
未使用も歓迎。

年賀ハガキの書き損じ・余りも歓迎  
(古いものもOKです)  
(切手に交換し、通信費に役立たせていただきます。)

### ▼ジャイチ

- 7月・機関紙59号発送
- 9月・国際交流フェスin佐久(コロナにより中止)
- 12月・理事会 令和2年度上半期事業報告等

### ▼ジャイチネパール

- 7月・両学校休校続く カトマンズ豪雨災害
- 9月・ブライター学校授業再開も感染拡大で再度休校
- 10月・レカリ・バシファント校の学生寮完成
- 11月・バシファント校授業再開 ブライター校一部再開

## 事務局だより

## 編集後記

「あの娘をベットにしたってニッサンするのはバックカードの骨の髄まで・・・」  
歌手で俳優の小林旭さんが昭和39年頃に歌って流行った「自動車ショー歌」  
カトマンズの街中を走る車の多くは日本の自動車メーカーのもので、日本製品がいかに信頼されているかを感じます。これからの車は環境に配慮した電気システム化の方向のようです。

今、パンデミックの世界。いい加減「ト」こらで止めても「コロナ」

## 集めています

| 収集品   |   | 使 途                          |
|-------|---|------------------------------|
| バザー用品 | 未使用のものなら何でも                             | 学校の運営費                       |
| 文房具   | 定規・鉛筆など                                 | 学校生徒用                        |
| 毛 糸   | 帽子を編みます                                 | 1・2年生用                       |
|       | 編みぐるみ・タワシなどのバザー用品に                      |                              |
| タオル   | 未使用のもの                                  | 学校生徒用                        |
| 使用済切手 | 換金します<br>(未使用切手も歓迎)                     | 学校の運営費<br>(切手の周りを5ミリ残してください) |
|       | 使用済切手につきましては、寄付品協力欄にお名前を掲載しまして、謝意を表します。 |                              |